

都道府県別賞一等

サンタクロースのプレゼント

神奈川県 横浜市立東野中学校 三学年

河本 彩華

小学五年の時、私は抜歯のために二泊三日の入院を経験した。歯を抜くだけなのに入院手術だなんて大袈裟だなあと子どもながらに思っていた。コロナ禍で入院するのも大変な状況の中、手術前検査を受けたり、医師からの手術説明や看護師による入院説明を聞いたりするのに、何度も学校を早退して電車やバスを乗り継いで通院した。入院するまでは、新型コロナウイルスに感染しないように家族みんなが気をつけて過ごしていた。手術はもちろん、入院することも生まれて初めての経験だった。しかも、新型コロナウイルスの影響で学校の宿泊体験がなくなり、親元を離れて過ごす初めての場が病院だったから、とても心細く不安だった。当時は面会制限が厳しく、面会は親一人だけだった。しかも母とは長く一緒にいられなかったから、母が帰った後はベッドに横になり、真っ白な天井をただ見ているだけで、時間の流れがゆっくりで、一日がとても長く感じられた。時折、病室から見える外の風景を眺めたり、病棟内の他の子どもと看護師の会話やラジオ番組を聞いたりして寂しさを紛らわせていた。もちろんキッズ携帯を握りしめながら……。

手術は無事終わり、退院後は経過観察のために何度か通院した。その際、母は保険金申請の手続きをしていた。保険は、私が生まれた時に祖父母が誕生祝いとしてかけてくれていたものだ。他にも、両親が保険相談や見直しで利用していたショップのファイナンシャルプランナーのすすめでかけてくれていたものもあった。入院手術への不安はあったが、両親から入院治療にかかる費用の不安を聞いたことは一切なかった。保険に加入をしていたおかげで、入院治療費はもちろん通院にかかる交通費をも上回るお金が戻ってきたようだ。

入院治療費以外にも、私には五年に一度サンタクロースからのプレゼントが届く。サンタクロースが五年分のプレゼントを一度に、私の通帳に振り込んでくれるのだと小さいころから聞かされて育ったのだ。通帳を見ると確かにサンタクロースと手書きで記載されている。サンタクロースの正体に気づいてしまった今、これが保険の健康祝い金だと知り、保険のしくみに興味がわいた。どうやら保険契約の時期が十二月だったようで、健康祝い金の振込時期がまたまクリスマス前だったのだ。サンタクロースからのプレゼントと教え込ませた両親の粋な計らいに、なんとも微笑ましく、温かい気持ちになった。サンタクロースからのプレゼントは、私が健康で無事に過ごせた証である。事故に遭うことも

第63回中学生作文コンクール

なければ、病気にもかからず、元気に過ごせている毎日にただただ感謝するばかりである。これからもサンタクロースからプレゼントが届くよう、元気で長生きしたいと願っている。

今年は受験生、来年は高校に進学する予定だ。そして待ちに待った五年に一度のプレゼントが届く年である。前回もらったプレゼントもまだ貯金したままだが、将来、必要な時がきつとくるだろう。その時にありがたく使わせてもらいたいと思っている。

私は祖父母や両親から愛されていると実感している。保険は万が一のリスクの備えだが、備えていることで生活や心のゆとりが生まれ安心していられる。サンタクロースからのプレゼントは、健康で無事に過ごせたことをただ喜ぶだけでなく、健康でいられるのも祖父母や両親、まわりで支えてくれる人たちのおかげであると感謝を忘れてはいけない。そして、今後自分がどんな人生を歩んでいきたいのか、自分の夢を再確認し、理想の自分に近づけるよう努力し続けていく決意の日、再出発の日にしたと思う。